

競技・施設課の主な事業の取組 状況と今後の取組について

目 次

総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度の開始について・・・ 1

あいちトップアスリート発掘・育成・強化事業の実績等について・・・ 3

国民体育大会愛知県選手団の成績について・・・・・・・・・・・・・・ 5

障害者スポーツ事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

愛知県新体育館について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の開始について

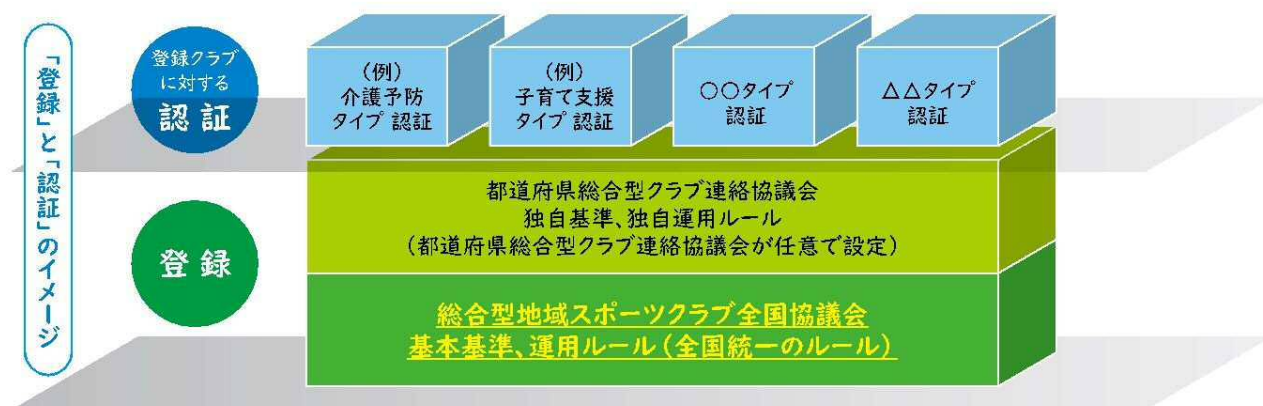
1 登録・認証制度

総合型地域スポーツクラブ（以下「総合型クラブ」という）が、より公共性の高い「社会的な仕組み」として、永続的に充実した活動を行えるよう、第2期スポーツ基本計画に基づき、日本スポーツ協会と都道府県体育・スポーツ協会が関係団体と連携して整備し、2022年4月1日より運用が開始される。

総合型クラブが地方自治体等とパートナーシップを構築し、公益的な事業体としての役割を果たしていくため、活動実態や運営形態、ガバナンスについての要件を基準とする。

○登録・・・総合型クラブ全国協議会（日本スポーツ協会内に設置）が定める登録基準を具備していると認められる総合型クラブを登録クラブとして認定する。

○認証・・・総合型クラブ全国協議会が定めるタイプ別の認証基準を具備していると認められる登録クラブを認証する。（認証に関する制度は、現時点では未整備）



※都道府県総合型クラブ連絡協議会は、都道府県体育・スポーツ協会内に設置される。

※総合型クラブ全国協議会の基準に加え、各都道府県総合型クラブ連絡協議会が独自基準や独自運用ルールを設定することが可能とされている。

2 本県の取組状況と今後の予定

2020年度		総合型クラブ育成推進本部会議において以下の事項を議決 ○広域スポーツセンター事業の委託先を県教育・スポーツ振興財団から県スポーツ協会へ変更し、総合型クラブの育成支援体制を一元化する。 ○県内の全ての総合型クラブ(132クラブ(R3.7.1現在))に対し県総合型クラブ連絡協議会への加盟を促す。
2021年度	2021年9月	総合型クラブ育成支援体制検討委員会において、登録・認証制度愛知県版諸規程原案について検討
	2021年10～11月	総合型クラブエリアネットワーク情報交流セミナーにおいて、登録・認証制度及び手続に関する説明を実施
	2022年1～2月	総合型クラブ育成推進本部会議において、登録・認証制度愛知県版諸規程を決定し、全国協議会において承認を受ける予定
2022年度		4月1日より登録・認証制度の運用開始

3 本県における登録・認証制度

- 全国協議会への登録申請を行うため、県スポーツ協会内に登録審査委員会を設置。
- 登録審査委員会の委員長及び委員（若干名）は、県スポーツ協会、県スポーツ局、県協議会、学識経験者で構成し、任期は2年。
- 登録基準・運用ルールは全国協議会に準じる（登録審査委員会が書類審査・実地審査を実施。2023年3月末までは形式審査）。

【登録基準】

基本基準		必ず満たすべき運用ルール
分類	個別基準	
(1) 活動実態 に関する 基準	①多種目（複数種目）の スポーツ活動を実施	・ 定期的（年12回以上）なスポーツ活動を2種目以上実施。
	②多世代（複数世代）を 対象	・ 次の世代区分のうちいずれか2区分以上の会員（年会費会員。当面は全会員を対象）。 A) 未就学児 E) ~29歳 I) ~69歳 B) 小学生 F) ~39歳 J) 70歳~ C) 中学生 G) ~49歳 D) 高校生 H) ~59歳
	③適切なスポーツ指導者 を配置（当面は、基準を 満たしていても登録可）	・ 日本スポーツ協会公認クラブマネージャー又はアシスタントマネージャー資格を有するクラブマネージャー又は事務局員を少なくとも1名は配置。 ・ 日本スポーツ協会が公認スポーツ指導者を養成している競技・種目について、当該競技の公認スポーツ指導者資格を有するスポーツ指導者を少なくとも1名は配置。
	④安全管理体制を整備	・ 緊急連絡体制を整備。
(2) 運営形態 に関する 基準	⑤地域住民が主体的に 運営	・ 規約等・事業計画・予算、事業報告・決算を議決する意思決定機関の議決権を有する者の過半数がクラブの所在する市町村の住民（又は当該市町村の住民と当該市町村に隣接する市町村の住民を合算すると過半数）。 ・ 非営利組織（株式会社等は対象外）。
(3) ガバナンス に関する 基準	⑥規約等を意思決定機 関で議決し、当該規約 等に基づいて運営	・ 規約等の改廃に必要な議決について当該規約等に規定。
	⑦事業計画・予算、事業 報告・決算を意思決定 機関で議決	・ 事業計画・予算、事業報告・決算を議決した意思決定機関の議事録（出席者を明記）を提出。

- 登録審査委員会の審査結果を受けて、県協議会が登録認定リストを作成し、9月末までに全国協議会に提出。
- 全国協議会の登録完了を受けて、県協議会が登録クラブに認定証（全国協議会幹事長名）を発行。
- 登録の有効期間は、11月1日から1年間（更新あり。2023年3月末までは予備登録）。
- 登録クラブは、全国協議会の主催事業への参画や、全国協議会が制定する標章等を使用する権利を得る。

あいちトップアスリート発掘・育成・強化事業の実績等について

1 あいちトップアスリートアカデミー事業

(1) 1期生（2019年度）の主な実績

- ・ジュニアのライフル射撃を体験したアカデミー生11名が、中央競技団体の指導を受ける育成プログラムの受講生に選ばれ、うち2名が小中学生の全国大会に出場し、ビームピストルで5位、エアライフルで7位に入賞した。
- ・アーチェリーに転向したユース修了生1名が、県高等学校新人体育大会で2位に入賞し、全国大会出場を決めた。

(2) 2期生（2020年度・ユースのみ）の主な実績

- ・ビーチバレーボールに転向したアカデミー生2名が、県ジュニア男子選手権大会で優勝し、全国大会出場を決めた。また、第76回国民体育大会ビーチバレーボール競技兼第6回東海ビーチバレーボール選手権大会でも優勝し、三重国体及び東海選手権大会への出場を決めた。
- ・ラグビー女子に転向したユース修了生1名とユースのアカデミー生1名が、県代表として大会に出場した。

(3) 3期生（2021年度）の活動状況

ア 選考会

(ア) キッズ・ジュニア

2021年4月下旬～5月下旬に岡崎中央総合公園体育館等で3回実施

(イ) ユース

2021年6月27日（土）中京大学豊田キャンパスで実施

イ 合格発表

コース	キッズ		ジュニア			ユース	合計
	学 年	小4	小5	小6	中1		
応募者数	289名	104名	81名	45名	21名	8名	548名
	393名		147名				
合格者数	21名	20名	20名	20名	11名	1名	88名
	41名		46名				

ウ 開講式

2021年7月17日（土）ウィルあいち

エ 活動期間

2021年7月17日（土）～2022年3月まで

オ 活動内容

(ア) キッズ

競技体験プログラム16回（9競技）、スポーツ教養プログラム12回実施

(イ) ジュニア

競技体験プログラム24回（11競技）、スポーツ教養プログラム15回実施

(ウ) ユース

競技団体の計画により、週1～3回程度実施

カ 新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言発出時の対応

2021年8月末～9月末まで活動を休止したが、休止期間中は、オンラインによるプログラム（ミーティング含む）等を実施。

キ 修了式

2022年3月12日（土）ウィルあいち（パラアスリート部門と同時に実施）

2 パラトップアスリート発掘・育成事業

今年度から、パラリンピックやアジアパラ競技大会等の国際大会で活躍できる地元出身の選手を発掘・育成するため、「あいちトップアスリートアカデミー」にパラアスリート部門を新設し、実施。

(1) 選考会

2021年7月31日（土）名古屋市障害者スポーツセンター

(2) 実施内容

体力測定や適性テストを実施し、面接を経て、競技ごとに適性の高い者をアカデミー生として選考。（各競技2名程度）

(3) 選考状況

対象競技	応募者数	合格者数
陸上競技	24名	5名
ボッチャ	5名	—
水泳	13名	—
卓球	3名	1名
車いすバスケットボール	1名	—
合計	46名	6名

(4) 開講式

2021年10月17日（日）愛知県自治研修所

(5) 活動期間

2021年10月17日（日）～2022年3月まで

(6) 活動内容

ア 専門競技プログラム

競技団体の計画により、週1～3回程度実施

イ スポーツ教養プログラム

2回実施

3 2026年アジア競技大会等選手強化事業

(1) 強化指定選手の競技力強化事業

強化指定選手に対し、合宿・大会等への参加費や競技用具の購入等を補助

	指定期間	強化指定選手数	強化費交付額
オリンピック・アジア競技大会強化指定選手	1年間	152名	上限30万円
パラリンピック・アジアパラ競技大会強化指定選手		32名	上限50万円

(2) 東京2020オリンピック・パラリンピック出場した愛知県ゆかりの選手等

オリンピック80名、パラリンピック15名 計95名

（金メダリスト14名、銀メダリスト8名、銅メダリスト4名、入賞者25名）

(3) アスナビ説明会

○ 「アスナビ」は、現役トップアスリートと企業をマッチングするための（公財）日本オリンピック委員会（JOC）の就職支援制度。「アスナビ説明会」は、JOCが主催し、安心して競技に取り組める環境を望むトップアスリートと、彼らを採用し応援することで、社内に新たな活力が生まれることなどを期待する企業との間に、Win-Winの関係を築いていくことを目的としている。

○ 新型コロナウイルス感染拡大防止を図るため、オンライン形式で開催。

・日時：2021年6月11日（金）午後4時30分から午後6時30分まで

・共催：愛知県、中部経済同友会

・参加者数：中部経済同友会会員（24社30名）、愛知県スポーツ局関係者

・登壇アスリート：6名

・方法：紹介VTR（競技映像1分程度）・自己PR（3分程度）

・就職内定者（1名）

大橋朋花選手（アーチェリー）が、日本特殊陶業株式会社に内定

国民体育大会愛知県選手団の成績について

1 第76回国民体育大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会

○ 大会概要

- (1) 期 日 2021年1月27日(水)から1月31日(日)まで
(2) 会場地 愛知県名古屋市、豊橋市、長久手市 岐阜県恵那市

○ スケート競技会・アイスホッケー競技会終了時点での総合成績

※()内は昨年の順位

順位	男女総合成績	女子総合成績	順位	男女総合成績	女子総合成績
1位	北海道(1)	長野県(1)	5位	兵庫県(7)	福岡県(9)
2位	長野県(2)	北海道(3)	6位	神奈川県(8)	兵庫県(8)
3位	愛知県(10)	神奈川県(7)	7位	大阪府(11)	山梨県(14)
4位	埼玉県(6)	愛知県(5)	8位	福岡県(11)	三重県(無)

※男女総合3位は2015年第70回大会以来。

2 第76回国民体育大会冬季大会スキー競技会(秋田県)

※新型コロナウイルスの影響により中止

3 第76回国民体育大会本大会(三重県)

※新型コロナウイルスの影響により中止

【参考】

1 第77回国民体育大会本大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会

○ 大会概要

- (1) 期 日 2022年1月24日(月)から1月30日(日)まで
(2) 会場地 栃木県日光市

2 第77回国民体育大会本大会冬季大会スキー競技会

○ 大会概要

- (1) 期 日 2022年2月17日(木)から2月20日(日)まで
(2) 会場地 秋田県鹿角市

3 第77回国民体育大会本大会

○ 大会概要

- (1) 期 日
2022年10月1日(土)から10月11日(火)まで
※会期前実施競技
2022年9月10日(土)から9月15日(木)まで、9月17日(土)から9月19日(月)
(2) 会場地 栃木県宇都宮市始め21市町、千葉県千葉市

障害者スポーツ事業について

1 障害者スポーツ大会事業について

(1) 愛知県障害者スポーツ大会の開催

障害のある方々が、スポーツ活動を通じて健康の増進と社会参加の促進を図るとともに、県民の障害に対する理解を深めることを目的とし、県障害者スポーツ大会を実施している。

○ 2021 年度実績：

実施競技	実施日	会場	参加者数
ソフトボール	4月10日	口論義運動公園野球場	40人
ボウリング	4月17日	星ヶ丘ボウル	57人
フライングディスク	11月14日	豊田市運動公園球技場	149人
卓球（一般）	12月4日	スカイホール豊田	51人
卓球（視覚障害）	12月19日	岡崎市子ども発達支援センター体育館	14人

※ 陸上競技及び水泳は新型コロナウイルス感染症の影響により中止

(2) 種目別スポーツ大会の開催

スポーツ・レクリエーション活動を通じて、障害者の体力増強、交流、余暇等に資することを目的とし、種目別スポーツ大会を実施している。

○ 2021 年度実績：

実施競技	実施日	会場	参加者数
グランドソフトボール	8月1日	愛知県立名古屋盲学校	28人
グラウンドゴルフ	11月7日	幸田町大日蔭グラウンド・ゴルフ場	85人
ポッチャ	12月8日	日本ガイシスポーツプラザ	169人

※ 車いすテニス、ゲートボール、アーチェリー、卓球（視覚障害）及び車いすバスケットボールは新型コロナウイルス感染症の影響により中止

(3) 全国障害者スポーツ大会への愛知県選手団派遣

毎年度秋に開催される国民体育大会終了後に、その開催都道府県で引き続き行われる国内最大の障害者スポーツ大会に愛知県選手団を派遣している。

○ 2021 年度実績

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により中止

- ・ 開催地：三重県
- ・ 大会期間：2021年10月23日～10月25日（選手派遣期間は10月21日～10月26日）
- ・ 選手団結団式：2021年10月9日
- ・ 愛知県選手団：225人（選手144人、役員等81人）

2 障害者スポーツ参加促進事業について

スポーツの経験がない障害者や、スポーツの経験があり、更なる技術向上を希望する障害者等を対象に、愛知県ゆかりのトップレベルの選手・指導者による講演会及び実技指導（競技体験）を実施し、障害者のスポーツへの参加促進を図るとともに、一般県民の障害への理解促進を図ることを目的として実施している。

2021 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策として、障害者支援施設へ訪問して少人数でのフライングディスクの体験や、特別支援学校と講師をリモートで繋いでオンラインによる車いすダンスの体験を行った。

○ 2021 年度実績：

実施競技	実施日	会場	参加者数
卓球（一般）	12月 4日	スカイホール豊田	57 人
卓球（視覚障害）	12月 19日	岡崎市子ども発達支援センター体育館	56 人
ボッチャ	1月 16日	愛・地球博記念公園体育館	100 人
フライングディスク	10～11月	障害者支援施設（6施設）【訪問】	106 人
車いすダンス	11～2月	特別支援学校（2校）【オンライン】	27 人

3 障害者スポーツ推進事業について

東京 2020 パラリンピックの開催や、愛知・名古屋における 2026 年アジアパラ競技大会の開催検討を契機として、障害者スポーツをより一層推進していくため、2020 年度に有識者等を委員とする検討会議を立ち上げ、障害者スポーツの推進に向けた今後の取組について検討した。

2021 年度からは、検討会議における意見を踏まえた新たな取組を順次実施していき、愛知から障害者スポーツを盛り上げ、スポーツを活かした共生社会の実現を目指している。

【2021 年度の取組】

（1）あいち障害者スポーツ連絡協議会の開催

2020 年度の検討会議を引き継ぎ、障害者スポーツの推進に向けた継続した連携体制を構築する。

○ 構成員：県、パラアスリート、スポーツ団体、経済団体、医療関係者、特別支援学校 等

○ 開催実績：

	実施日(予定)	議題
第1回	2021年7月19日	2021年度事業の説明、2022年度以降の取組の検討
第2回	2022年3月23日	2021年度事業の報告、2022年度新規事業の説明

（2）ポータルサイトの構築

障害の有無に関わらず誰もがスポーツを楽しむことができる情報交流の場を構築する。

○ 掲載内容：大会及びイベント情報、施設及び団体情報、地域スポーツ情報 等

(3) 地域で障害の有無に関わらず誰もが参加できるスポーツプログラムの実施

総合型地域スポーツクラブにおいて、障害者スポーツに関するプログラムを実施することにより、障害者が地域でスポーツ活動をする機会を提供するとともに、地域住民と障害者の交流を促進する。

○ 日程・場所・内容：

実施日	実施クラブ	内容	参加者数
2021年12月12日	SKITSクラブ（豊橋市）	ボッチャ	70人
2022年1月15日	わっと楽しくスポーツふそう（扶桑町）	ボッチャ	42人
2022年1月30日	高橋スポーツクラブ（豊田市）	ダーツ	

(4) スポーツ指導者等への障害者スポーツ勉強会・体験会の実施

地域のスポーツ指導者に対して、障害者スポーツに関する勉強会や体験会を実施することにより、地域における障害者スポーツ推進のキーパーソンを育成する。

○ 対象者：スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ関係者、理学療法士 等

○ 参加者数：尾張地区 30 人、三河地区 14 人

○ カリキュラム・日程・場所：

カリキュラム	尾張地区		三河地区	
	日程	場所	日程	場所
1日目 (勉強会)	10月9日	愛知県教育会館	10月3日	豊橋市総合体育館
2日目 (体験会)	10月31日	名古屋市障害者 スポーツセンター	10月17日	
3日目 (実践)	12月18日	愛・地球博記念 公園体育館	10月30日	

【2022年度の新たな取組（予定）】

(1) 障害者スポーツ交流イベントの実施

誰もがスポーツを通じて交流を深められるイベントを開催（年1回・県体育館等）。

内容（例）：パラリンピアンによるトークセッション、パラ競技用具の展示など

(2) 地域や医療機関でのスポーツ体験機会の創出

特別支援学校、リハビリ施設、障害者支援施設等に、ボッチャ等の競技用具を貸出。

(3) 障害者スポーツを支える人材の育成

(ア) あいちパラスポーツサポーターの育成

障害者スポーツを理解し応援する「あいちパラスポーツサポーター」を育成。

(イ) 若手指導者の確保

障害者スポーツ指導員の資格取得認定校の学生等を対象に、指導体験会等を実施。

(ウ) 指導者のリ・スタート支援

障害者スポーツ指導者の活動を再開する者等に対して、学び直しを提供。

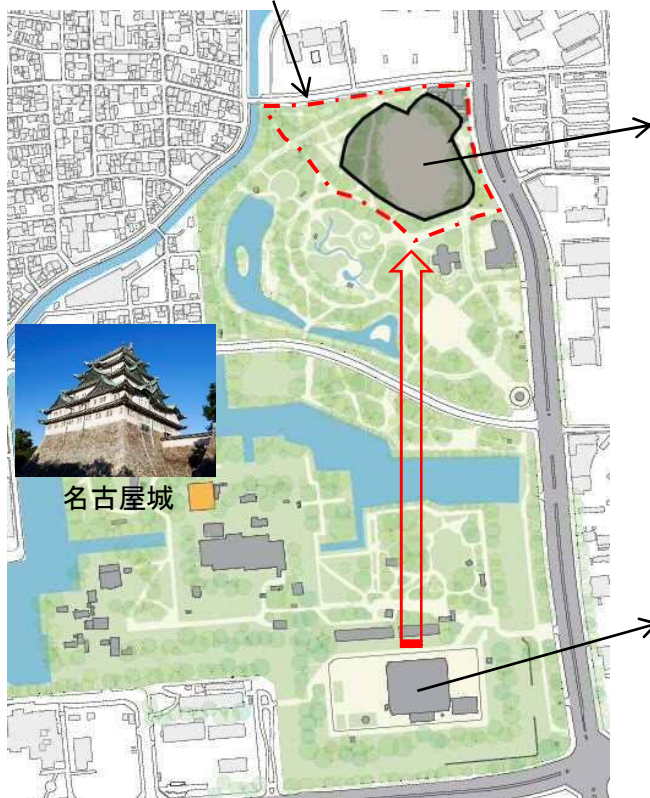
愛知県新体育館について

1 概要

現体育館は、施設の老朽化とともに、規模・機能がスポーツの国際大会を開催するための国際水準を満たしていないことから、2026年のアジア競技大会に利用できるよう、2025年夏のオープンに向けて新体育館の整備を進めている。

2 事業計画地

名城公園北園の一部 約 46,000 m²



【外観】隈 研吾氏のデザインによる樹形アリーナ



【現体育館】



3 事業内容

事業手法：PFI手法の「BTコンセッション方式」により、設計・建設から維持管理・運営を一体として民間事業者が実施

事業者名：株式会社愛知国際アリーナ

代表企業 <設計・建設時> 前田建設工業株式会社

<維持管理・運営時> 株式会社NTTドコモ

その他の Anschutz Sports Holdings (Anschutz Entertainment Group)、

出資者 三井住友ファイナンス&リース株式会社 等

事業期間：<設計・建設> 2021.6.1 から 2025.3.31 (3年10か月)

<維持管理・運営> 2025.4.1 から 2055.3.31 (30年)

契約金額：サービス購入料 19,999,100,000 円 (税込)

(参考)設計・建設費相当額 約400億円

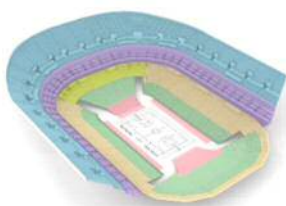
4 施設計画

(1) 建築概要

	新体育館	現体育館
建築面積	26,700 m ²	7,633 m ²
延床面積	61,700 m ²	17,240 m ²
階層・最高高さ	地上5階・41.0m	地上3階 地下1階・20.4m
最大収容人数	17,000人（立見含む）	7,407人

(2) 主な施設

- ・ メインアリーナは「ハイブリッドオーバル型（オーバル型+馬蹄型）」の観客席と30m以上の天井高さを確保



【イメージ図】

【座席計画例】

大相撲	11,000席
バスケットボール	15,000席
フィギュアスケート	14,100席

- ・ 県民のスポーツ活動や文化活動の拠点となるサブアリーナ、多目的ホール等を整備（サブアリーナと多目的ホールは一体利用が可能）

(3) 維持管理・運営

- ・ 最新技術を活用した維持管理システムを導入し、計画的にアップデートすることで、常に最先端のスマートアリーナとし、顧客満足度を最大化
- ・ 世界最先端のスマートアリーナにふさわしい最新の観戦・鑑賞体験をセンタービジョンや国内アリーナ最多相当数のモニターなどを配置して演出
- ・ ICTを活用して、AR観戦やマルチアングル観戦など、非日常的な体験を提供

5 スケジュール

- 2021年度 : 契約、設計
- 2022年度～ : 設計、建設工事（7月着手予定）
- 2025年度 : 夏オープン予定
- 2026年度 : 第20回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋)